

美濃地区社会教育だより

つなぐ

中濃県事務所 振興防災課振興係

社会教育担当

平成 29 年

8 月発行

美濃市生櫛 1612-2

中濃総合庁舎 33-4011 (内線 208)

日頃より、各地域の社会教育や生涯学習の振興にご尽力いただき、ありがとうございます。

さて、先般6月に開催しました「美濃地区社会教育研修会」において、岐阜大学地域協学センター長 益川 浩一 氏の講演を基に、三市の関係者の皆様が日頃抱いている熱い想いを語り合われました。今後の美濃地区の社会教育、生涯学習振興の原動力となっていくこのような活動や社会教育委員、公民館や生涯学習施設、地域と学校をつなぐ「地域学校協働活動」等の取組とそれに携わる方々の情報を本誌により発信することで、美濃地区をつないでいきます。各地域の各市における誇れる活動、新たな広めたい取組等がありましたら、是非情報をお寄せください。各担当者の元へ直接取材に伺います。



今回のトピック

美濃地区社会教育研修会

つながることで広がる笑顔と未来 ～私からあなたへ・地域へ～

美濃地区の社会教育や生涯学習の振興を図るため、関係者を対象とした研修会を開催しました。前半は、岐阜大学地域協学センター長 益川教授の講演、後半は、講演を基にしたグループ交流を行いました。

- 主催 岐阜県中濃県事務所
- 共催 美濃地区社会教育推進協議会
- 日時 平成29年6月20日(火) 13:30～16:30
- 参加者 美濃地区の公民館等関係者や社会教育委員、生涯学習や社会教育に関連する業務に従事する関係者 (合計) 58名
- 会場 美濃市中央公民館
- 日程

13:30	14:00 ~ 15:00	15:10 ~ 16:05	16:05~16:20	16:30
開会	講演	グループ交流	講評	挨拶

(講師) 岐阜大学地域協学センター長
教授 益川 浩一 氏
(演題) 今、社会教育関係者に
期待されていること

9名程度の少人数グループで
講演を基にした意見交流



1. 益川教授の講演



家庭でも地域でも、人々の孤立化が進んでいる。
子育て不安、引きこもり、少子高齢化 等

地域やコミュニティにおける「絆づくり」を！

「あてにし、あてにされる関係」が重要

- ・公民館を「地域の人々を支援する拠点」「地域の諸問題の解決を促す学習拠点」に
- ・「助言活動重視型」から「実践活動重視型」の社会教育委員に

2. 講演を基にしたグループ交流



市を超えたつながりが生まれました！



・地域の人が共に学ぶことを通して、あてにし、あてにされる人間関係を作っていきたい。子どもを巻き込む際は、お客様としてではなく、子どもがやりたいことをやらせ、大人がそれを支えていくことも大切だ。

・社会教育委員と公民館、ふれあいセンター等との連携が大切だ。また、学校とも連携し、地域みんなで子どもを育てていきたい。

・様々な世代が関われるイベントを企画すると、地域のつながりが生まれるのではないかと。

今後の各地域での取組が期待されます！

☆アンケートから（自分自身にプラスになったこと・これからやってみようと思うこと）

- ・社会教育活動がなぜ必要かをわかりやすく説明していただき、自身のモチベーションアップにつながった。特に「ソーシャルキャピタル」という観点から、地域の皆様に社会教育の必要性を説いていこうと思う。（社会教育委員）
- ・「実践活動重視の役割を担って」という点について、自信がもてた。市全体の人とつながりをもつことは難しいが、顔の見える距離において、あてにし、あてにされる関係を大切にしていきたい。（社会教育委員）

- ・公民館長として、地域の間人間関係、地域住民の絆を一層深めていきたいと思う。（公民館長）
- ・社会教育委員、公民館の在り方、地域での役割などを理解することができた。公民館専任主事としての地域とのかかわりをよく考え、新しい公民館として出発していこうと思った。地域の人と人のつながりを大切に活動していこうと思う。（公民館専任主事）
- ・地域の実情を知って、今後どのように対処していくと良いのか、方向性が見えてきた気がする。グループ交流の良さだと思う。（公民館関係者）

・地域に対し、積極的な行動を起こすことが大切だと感じた。色々な団体があり、やっていることも似通っている部分がある。今後、これらを整理していくことも必要なのではないか。（ふれあいセンター関係者）

☆美濃地区社会教育推進協議会長 清水 宗夫 様から
・戸惑いや不安をもち、出席いただいた方もおみえになったと思います。しかし、皆様の豊富な人生経験や貴重な社会奉仕活動等をお話いただくことで、お互いの不安が解消され、現在の活動に自信をもたれたことを会場の雰囲気から感じました。これを機会に、皆様が地域の絆づくりを進め、一層活躍されることを願っております。